

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令で 定める 基準単 位数	配置 困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	人文学科	夜・ 通信	41	0	24	65	13	
教育学部	学校教育教員養成課程 養護教諭養成課程	夜・ 通信	41	0	68	109	13	
法学部	法学科	夜・ 通信	41	0	13.5	54.5	13	
法学部	法学科	①夜・ 通信	41	0	6	47	13	
経済学部	経済学科	夜・ 通信	41	0	7	48	13	
経済学部	経済学科	①夜・ 通信	41	0	0	41	13	
理学部	数学科 物理学科 化学科 生物学科 地球科学科	夜・ 通信	41	0	0	41	13	
医学部	医学科	夜・ 通信	41	0	131.3	172.3	19	
	保健学科	夜・ 通信	41	0	53	94	13	
歯学部	歯学科	夜・ 通信	41	0	34.95	75.95	19	
薬学部	薬学科	夜・ 通信	41	0	26.75	67.75	19	
	創薬科学科	夜・ 通信	41	0	6	47	13	

工学部	機械システム系学科	夜・通信	41	8	4	53	13	
	電気通信系学科	夜・通信	41	8	4	53	13	
	情報系学科	夜・通信	41	8	14	63	13	
	化学生命系学科	夜・通信	41	8	2	51	13	
環境理工学部	環境数理学科	夜・通信	41	6	4	51	13	
	環境デザイン工学科	夜・通信	41	6	6	53	13	
	環境管理工学科	夜・通信	41	6	5.5	52.5	13	
	環境物質工学科	夜・通信	41	6	7.5	54.5	13	
農学部	総合農業科学科	夜・通信	41	0	5	46	13	
マッチングプログラムコース		夜・通信	41	0	0	41	13	
グローバル・ディスカバリー・プログラム		夜・通信	41	0	4	45	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile04.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	私立大学学部長・教授	2019.4.1～ 2021.3.31	企画・評価・総務担当
常勤	文部科学省	2019.4.1～ 2021.3.31	財務・施設担当
非常勤	日本政策投資銀行	2019.4.1～ 2021.3.31	特命（経営力強化） 担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスについては、「岡山大学シラバス作成ガイドライン」において、シラバスのフォーマットは全学で統一としたうえで、授業内容、到達目標、教科書、成績評価の方法などの基本項目を定めている。また、フォーマットの詳細は定期的に見直すこととしている。</p> <p>各授業担当教員は、岡山大学シラバス作成ガイドラインに基づき作成された、全学統一シラバスフォーマットに、「シラバス作成上の留意事項」「シラバス入力の手引き」等に従い、シラバスを作成する。</p> <p>全授業科目において学生の履修登録開始前の3月末までに日本語版、英語版シラバスを作成し、HPにて公開しており、学外からも閲覧可能としている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の到達目標、成績評価の方法・基準等は、シラバスに明記することにより、予め学生に周知し、学生からの質問や疑問には適切に応じている。</p> <p>成績評価は、授業の形態(講義、実験、実習、演習、実技等)に対応し、期末テストのみに偏重することのないよう、出席、学習態度、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。</p> <p>また、成績評価の客観性を担保すると共に国際的に通用するルーブリックの事例集を全学に提示し、ルーブリックに基づく成績評価を推進している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA制度を導入し、HP及び各学部学生便覧等にて学生に周知している。GPAは、以下の計算式で算出したGP(グレートポイント)を用いて算出する。</p> $GP = (\text{評点} - 55) / 10$ <p>※ 不合格(評点60点未満)のGPは「0」とする。</p> <p>GPAの計算式は、以下のとおり</p> <p>分子…履修登録した授業科目の単位数×その授業科目のGPの総和</p> <p>分母…履修登録した授業科目の単位数の合計</p> <p>※「認定」又は「修了」の評語により、単位を修得した科目や履修登録の取消手続きをした科目は、GPA算出の対象とはならない。</p> <p>各自のGPAは学生本人及び指導教員等は随時確認が可能となっており、個々の学生への指導の際や、各種選考の基準、教学IRの分析データなどに活用されている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/gpa.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、ディプロマポリシーを全学、各学部・学科単位で定め、HP、大学案内、学生便覧等にて公開している。本学におけるディプロマポリシーとは、卒業に際し、当該課程における要件として学生が身につけているべき能力を明示したものであり、平成30年度より、学生が履修する授業科目によって「何ができるようになるか」を明確化し、どの様な学習成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するののかという方針をできる限り具体的に示すことを目的として、観察可能な能力を「コンピテンシー」として明示しディプロマポリシーと関連付けしている。定められた卒業要件を満たすことがディプロマポリシーで示す学生が身につけているべき能力を満たすこととなり、学生の修得単位数等を踏まえ、学部長の申し出により学長が卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/undergraduate.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/zaimu_syohyo30.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/zaimu_syohyo30.pdf
財産目録	—
事業報告書	http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/jigyo30.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/kanji_iken_30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:国立大学法人岡山大学 年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/johokoukai_j/file/nendor2.pdf
中長期計画(名称:国立大学法人岡山大学 中期計画 対象年度:平成28~33年度)
公表方法: http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/johokoukai_j/file/chuki_keikaku200325.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/hyoka_gjisseki(30).pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/hyoukahoukoku2014.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、人文科学諸領域の文化を総合し、新たな価値を創造するため、専門の学術を教育研究し、知的、感性的能力を涵養して社会的要請に応ずる人材を育成し、世界文化の進展に寄与することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-letters.html ）
（概要） 人間性に富む豊かな教養【教養】 人間・社会・自然の多様な問題に関心を持ち、人間が長い歴史を通じて築き上げてきた豊かな知の伝統を継承しつつ、人文学における様々な探求に携わる上での基礎的能力を身につけている。 社会に貢献できる専門性【専門性】 専門的な学識とそれに基づく技能、とりわけ古典・外国語文献の読解、資料・作品の分析、あるいは実験・調査を行う能力を習得し、それらを通じて社会に貢献することができる。 効果的に活用できる情報収集・発信力【情報力】 人類史の過去と未来を見渡す幅広い視野に立ち、必要な情報を収集・分析し、的確な文章力を駆使してそれらを発信できる。 時代と社会をリードする行動力【行動力】 グローバル化の進展、価値の多様化の中で「人間とは何か」という根源的な問いをいできつつ、論理的思考力、異文化理解力、外国語運用能力に裏付けられたコミュニケーション力を用いて、積極的に行動できる。 生涯にわたる自己実現力【自己実現力】 旺盛な知的好奇心、豊かな感性、先入観に惑わされない公正な思考、自分を客観的に把握する能力に基づきながら、自立した個人として生涯にわたって自己の成長を追求できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-letters.html ）
（概要） 文学部人文学科には、「哲学・倫理学」「芸術学・美術史」「地理学・社会学・文化人類学・社会文化学」「心理学」「歴史学・考古学」「言語学・現代日本語学」「日本語・日本文学」「外国語・外国文学」の 8 つの教育分野があり、授業科目は大きく教養教育科目（30 単位必修）と専門教育科目（94 単位必修、卒業論文 14 単位を含む）に分かれます。 1 年次には、教養教育科目として、「知的理解」「言語」「実践知・感性」「汎用的技能と健康」「導入教育」を履修するとともに、「人文学の論点」「人文学入門演習」で大学での学習・研究の基礎となる知識や方法について学びます。また、2 年次以降に履修する専門教育科目として、各分野の学問の基本体系を学ぶ「人文学概説」、各分野の研究の技法を実践的に学ぶ「実践演習」、各分野の学術研究の最新の成果を解説する「人文学講義」、卒業論文の作成のための実地指導である「課題演習」を開設しています。演習科目においては少人数教育を重視し、ディスカッション等を通じて、生きた知識が身につくことを目指します。 学生は、入学後、アカデミック・アドバイザーの支援を受けながら、どのような知識や

能力を身につけて卒業するかという4年間の学修計画を主体的に立案します。自らの問題意識に従って、特定の分野の学問を深く究めることも、複数の分野にまたがって履修したり、学際的な研究テーマに取り組んだりすることも可能です。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy15.html>）

（概要）

教育内容・特色

人文学科1学科制のもとで、「哲学・倫理学」「芸術学・美術史」「地理学・社会学・文化人類学・社会文化学」「心理学」「歴史学・考古学」「言語学・現代日本語学」「日本語・日本文学」「外国語・外国文学」の8つの教育分野を設け、幅広い学習を保証しています。1年次では「人文学の基礎」を含む教養教育科目に加え、「人文学入門演習」「人文学の論点」などの専門教育科目を履修することを通して、人文学のエッセンスを学ぶとともに、専門分野の決定に結びつけていきます。2年次以降は、「人文学概説」で各分野の学問の体系的な知識を身につけ、「人文学講義」で研究の最先端の成果を学びます。また「実践演習」「課題演習」では、研究方法に関する指導を受けながら、学びの集大成としての卒業論文に取り組めます。複数の分野にまたがる履修や分野を超えて開設されるテーマ型の科目群であるクラスターの履修を推奨するとともに、資格取得のためのプログラムや留学を目指す外国語習得プログラムを通じて豊かな経験と感性を育み、人間の築き上げた文化に対する理解を深めます。そして、複雑で多様な現代社会を生き抜くために必要な思考力と表現力を身につけます。

求める人材

文学部人文学科では、高校で履修した基礎的な知識を備え、課題を発見し解決していく意欲と能力をもち、論理的な思考とそれを的確に表現する力量を備えていることを主眼として入学者を選抜します。入学後は次のような人材に成長できる人を求めています。

1. 哲学・倫理・芸術に関心をもち、幅広く本や芸術作品に親しんでいる人
2. 心や行動、社会や文化、それらと自然環境との関係や地域性に関心をもち、自ら情報を収集して、データに基づいた議論に取り組める人
3. 日本と世界の歴史や異文化に関心があり、斬新な発想と論理的な思考で過去と現代のつながりを学ぼうとする意欲のある人
4. 言葉そのものの仕組みや歴史、言葉の多様性と普遍性、地域・社会・文化と言葉の関係などに関心や問題意識があり、それらについて科学的に研究する方法を学びたいと思っている人
5. 言葉と文化に対する感性を養いつつ、人間および世界について問うことで、現代社会と積極的に関わろうとする意欲をもつ人

入学後の学修のため、特に以下の教科の内容を修得していることが望まれます。

【国語、外国語、地理歴史、公民】

学部等名 教育学部

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

（概要）

本学部は、管理学則に示す大学の目的を達成するとともに、教育の理論及び実際を教授研究し、学校教育の分野等で活躍する有為な人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-edu.html>）

<p>(概要)</p> <p>人間性に富む豊かな教養【教養】 自然・社会・人間にかかわる多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、先人の足跡に学び、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。</p> <p>教師としての専門性【専門性】 教育科学や専門諸科学に関する知識と技術を幅広く習得し、反省的・創造的に教育活動に取り組むための基盤となる教育実践力をバランスよく身につけている。</p> <p>効果的に活用できる情報力【情報力】 子どもと学校及びそれらを取り巻く環境に関する情報を必要に応じて自ら収集・分析し、正しく活用できる能力を有すると共に、効果的に情報発信できるだけでなく、情報モラルの指導ができる。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】 グローバル化に対応した国際感覚や言語力とともに、社会人そして教師として必要とされるコミュニケーション能力を有し、地球規模から地域社会に至る共生のために、的確に行動できる。</p> <p>生涯にわたる成長と自己実現力【自己実現力】 子どもたちとのふれあいやスポーツ・文化活動など多様な経験を通して、自立した個人として日々を享受するとともに、教師として主体的に学び続け、生涯にわたって自己の成長を追求できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-edu.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育学部は、教育に関する理論と実践を教授・研究し、広く教育現場で活躍できる創造性豊かな人材を養成することを目的としてカリキュラムを構成しています。教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育においては、教員として求められる専門的知識や技能に加えて、豊かな人間性や職業観を身につけるために多様な科目を履修します。</p> <p>教育学部では、教育実践力を身につけた教員を養成するために、教育実習や体験的授業科目を軸（コア）にした独自の「教員養成コア・カリキュラム」により、大学で学んだ教育の理論を教育現場で活かしたり、実践をふまえて理論を見直したりすることができるように学びを積み上げていきます。カリキュラムの中核に、教育現場での体験・実習活動を1年次から4年次にわたり継続的に取り入れることにより、大学の授業と教育現場での実践との効果的な往還が可能となり、教育現場の求める実践的指導力を備えた教員の養成を目指しています。例えば、教育現場や他の機関（博物館、福祉施設等）との連携による教育実践力の育成を意図した「フィールド・チャレンジ」を設定し、具体的な教育プログラムの企画・立案から実施、評価までを体験できるようにしています。また、学校で実践的経験を積む「教職実践インターンシップ」も導入しています。そして、身につけた教員としての資質や能力を「教職実践演習」で最終的に確認しています。</p> <p>以上のように、教育実践力をバランスよく身につけた、反省的で創造的な教員を育成することを目指してカリキュラムを作っています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy16.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育内容・特色</p> <p>岡山大学教育学部では、反省的・創造的な教員の育成を目的として、教育実習や体験的授業科目を軸（コア）にした独自の「教員養成コア・カリキュラム」を開発しています。このカリキュラムでは、学生が大学の授業で教育の理論を学び、それを教育現場で実践することで、学びを積み上げていきます。大学と教育現場でのこの循環的な学びを通して、教師に必要とされる4つの力（「学習指導力」、「生徒指導力」、「コーディネート力（地域や家庭と連携する力）」、および「マネジメント力（学校・学級経営力）」）で構成される教育実践力をバランス良く向上させていくことができます。</p>

教育学部の教育内容の特色としては、学校教育の目的や教師の使命と教科の指導や教科内容構成等に関する知識を系統的に獲得するための大学での授業に加えて、それらを実践の場で応用する機会を豊富に設けていること、が挙げられます。具体的には、附属学校園での観察・参加実習、教育実習、公立学校園での「教職実践インターンシップ」など、教育現場での体験・実習活動を4年間、継続的・系統的に取り入れています。また、学校現場や社会教育施設等でボランティア活動を行う「フィールド・チャレンジ科目」を1年次から開講しています。

求める人材

1. 基礎的な学力を持ち、学校教育への関心と理解そして熱意がある人
2. 子どもたちと一緒に活動することが好きな人
3. 学ぶことの楽しさを伝えることに意欲のある人
4. 子どもの発育発達と心身の健康について学び、豊かな感性を育みたい人
5. 多様な人々と連携・協働しながら地域社会に貢献していく意欲がある人

入学後の学修のため、高等学校段階までに習得してもらいたいこと。

高校では授業に意欲的に取り組み、その学習内容を習得してください。このようにして身に付けた基礎学力は、教員として子どもの学びと発育発達、心身の健康を支援するための知識を習得する上で必要不可欠なものです。また、様々な活動や社会の問題に興味をもって自分なりに考え、部活動やボランティアなどに積極的に参加することを通して、幅広い経験を積んでください。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、法学を教授研究することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-law.html ）
（概要） 人間性に富む豊かな教養【教養】 社会の多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた基礎的な教養を身につけている。 リーガル・マインドの涵養【専門性】 法や政治等に関して実践的課題に対応できる法的思考能力（リーガル・マインド）を身につけ、社会に貢献できる。 情報を科学的に分析する能力【情報力】 現代社会の諸問題について、その歴史性や国際的比較等多角的な視点から理解し、科学的に分析する能力を身につけ、それを効果的に情報発信できる。 コミュニケーション能力【行動力】 グローバル化および情報化する社会で活躍できるコミュニケーション能力と情報活用能力を身につけ、的確に行動できる。 課題を発見し、自ら判断し解決しようとする意欲と能力【自己実現力】 現代社会に生起する諸事象から課題を発見し、自ら判断し解決しようとする意欲と能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-law.html ）

(概要)

法学部法学科には、昼間に授業を行う「昼間コース」と主として夜間に授業を行う「夜間主コース」が置かれています。本学部の教育課程は、人間性に富む基礎的教養の修得を目標とする教養教育科目および社会の実践的課題に対応できる法的思考力（リーガル・マインド）の修得を目標とする専門教育科目から編成されており、学生の皆さんが、自分の関心や目的に沿って、法学・政治学を効果的に学ぶことができるように多様性のある教育科目が段階的・体系的に編成されています。

まず法学科昼間コースでは、1年次に入門科目を中心とした「法政基礎科目群」を、2年次には「法政共通科目群」を、3・4年次には「グローバル法政科目群」を配当し、これらをすべての学生が履修する科目群として位置づけています。また、主に3年次以降に配当される専門科目については、公務員を目指す「公共法政コース」、民間企業を目指す「企業法務コース」および法律専門職を目指す「法律専門職コース」の3つの履修コースにそれぞれコア科目を置き、学生の皆さんの体系的な学習をサポートしています。

昼間コースでは、法学・政治学についての理解を深め、様々な問題を発見する能力、自ら考え表現する能力、共に考えるコミュニケーション能力を養うことを目的とする少人数教育を各学年で実施しています。1年次生には、学生生活上のガイダンスを兼ねた法学・政治学の入門のための少人数科目として「法政基礎演習」が開講されています。2年次に開講される「演習Ⅰ」では、法学・政治学の主要な分野について、参加者の個別報告と討論を通じて、3・4年次での学習を進めるための基礎づくりの場を提供します。「演習Ⅱ」は、既に一定の学習を進めた3・4年次生のための演習で、法学・政治学の様々な専門分野について、少人数での報告と討論を通じて、講義で得た専門的な知識をさらに深めていくことができます。

法学科夜間主コースの教育課程は4年間一貫教育で、1年次から専門科目を履修することができ、4年次まで系統立った学習ができるよう配慮された科目配当がなされています。1年次に「法政基礎演習」、3・4年次に「演習」が開講されるほか、多くの授業が少人数クラスで行われています。専門科目については、30単位まで昼間コースの講義を履修することができ、原則として社会人であることを踏まえた多様な勤務時間に対応した学習時間を選択することができるようになっています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy17.html>）

(概要)

教育内容・特色

現実社会で生起する諸問題に対して柔軟かつ適切な判断を行うため、法学および政治学を学ぶことを通じて、以下の能力の発展・向上を目指します。

1. それぞれの法分野について基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に問題を解決できる法的思考能力（リーガル・マインド）
2. 政治や社会について多角的な視点から理解し、現代社会に生起する諸問題を自ら発見し解決しようとする意欲と能力
3. 国際社会に関する理解をもち、グローバル化・情報化する社会で活躍できるコミュニケーション能力と情報活用能力

求める人材

高校までの学習を通じて形成された学力を重視しつつ、以下のような資質をもった学生を求めます。

1. 社会に対する広範な関心を持ち、幅広い視点から柔軟にものごとを考えようとする人
2. 自ら課題を発見し、ねばり強く考え、自ら判断していこうとする人
3. 世界の動きに関心があり、グローバルな視点をもって活躍したいという意欲のある人

また、将来の職業との関係では、裁判官、検察官、弁護士などの法律専門職や公務員、民間企業などで活躍することを志望する学生を歓迎します。

入学後の学修のため、国語・外国語の2教科を中心に読解力、思考力、表現力を養い、まんべんなく基礎学力を積み上げ、着実に学習する態度を身につけていることが望まれます。

学部等名 経済学部

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

（概要）

本学部は、経済学及び経営・会計学に関する専門の学術を教授研究し、社会的要請に応える人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-eco.html>）

（概要）

人間性に富む幅広い教養【教養1】

人間と社会、自然と生命の諸問題に積極的・意欲的に関わっていくことのできる、豊かな知性と共感性ならびに高い倫理観を身につけている。

専門性を支える深い教養【教養2】

経済や経営に関する専門性を活かす上で不可欠な、人間や社会の在り方に対する関心と理想を持ち、論理的な思考と大局的な判断ができる深い教養を身につけている。

経済・経営に関する専門的な分析力と応用力【専門性】

経済・経営に関する専門的な知識、分析力・問題解決力を体系的かつ多面的に修得している。

情報を収集し効果的に活用できる能力【情報力】

必要とされる情報を自ら収集・分析し、その成果を効果的かつ適切に活用、発信するための能力を身につけている。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

グローバル化と共生の時代にふさわしい国際感覚と言語・コミュニケーション能力を身につけ、地域・国際社会、組織、その他さまざまな人間関係の中で積極的に働きかけることができる。

自己実現に向けて専門的知識を生かし目標を追求する力【自己実現力】

卒業後も主体的・持続的に自己を向上させることに意義を見出し、学ぶ姿勢を保ち、自立した個人として自らが掲げた目標に向けて歩いていくことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-eco.html>）

（概要）

経済学部は、経済・経営領域の専門知識と分析手法を身に付け、合理的思考と公正を重んじるとともに、他者への理解と思いやりを大切に、広く社会の発展と安定に貢献できる人材の育成を目指しています。

経済学部の教育は、入学から卒業まで一貫した少人数教育と主体的学修重視の方針のもと、学生それぞれの関心や目的に応じた確に科目履修できるようにカリキュラムを編成しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy18.html>）

<p>(概要)</p> <p>教育内容・特色 経済学・経営学・会計学の専門知識と分析力を身に付けるための講義科目に加え、アクティブ・ラーニング（AL；学生自ら積極的に参加する授業形態）を中心とする演習・研究等の少人数・双方向型科目群が用意されています。経済学部には昼間コースと夜間主コースがあり、それぞれのコースに特色を持ったカリキュラムが用意されています。</p> <p>求める人材 経済学部は、以下のような学生がそれぞれの個性を生かしながら学び、将来の進路・目標を考えてゆくことを期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済問題・社会問題に関心がある人 2. 論理的に考えること、もしくは数学を用いた分析が好きな人 3. 発言や行動が積極的で、民間企業、官公庁、NGOやNPO等の組織の中でリーダー的な役割を果たしたいと望む人 4. 英語をはじめとした外国語を駆使して、国際的な舞台で活躍したいと希望する人 5. 弱者にたいする思いやりと社会における公正を大切にして、人々のために働く情熱を持った人 <p>なお、入学後の学修のため、入試方法に関わりなく、英語・数学・国語の各教科科目に関しては、高等学校卒業レベルの基礎学力を有していることが求められます。</p>

<p>学部等名 理学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html）</p>
<p>(概要) 本学部は、自然科学の基礎を教授研究し、創造的、思考的及び分析的能力を備えた有為な人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-sci.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>人間性に富む豊かな教養【教養】 自然や社会の多様な問題に関心を持ち、幅広い視野から物事を捉えることができる豊かな教養を身につけている。</p> <p>自然科学の理解と活用につながる専門性【専門性】 様々な自然現象の背後にある普遍的な法則や原理を理解するとともに、問題解決につながる汎用性に富んだ専門知識を身につけている。</p> <p>効果的に活用できる情報力【情報力】 自ら情報を収集・分析し、正しく活用する能力を有するとともに、効果的な情報発信ができる。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】 国際的に活躍できる語学力とコミュニケーション能力を有し、社会生活の中での的確に行動できる。</p> <p>生涯に亘る自己実現力【自己実現力】 大学で培った知識と経験を生かし、自己の成長を追求することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-sci.html）</p>

(概要)

理学部では、本学部ディプロマポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養，自然科学の理解と活用につながる専門性，効果的に活用できる情報力，時代と社会をリードする行動力，生涯に亘る自己実現力）を備えた人材を育成するため，教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

本学部では，各学科とも4年間の一貫した教育コースを設定しています。1年次には，全学規模で開講される教養教育科目に加え，理学部全学科共通の専門基礎科目および各学科で開講する専門科目を通じ，大学で自然科学を学んでいく上で基礎となる知識や技術について学びます。2年次では専門科目の割合が高くなります。3年次には，より高度な内容の講義や学際分野の講義が設定されています。また，専門教育科目で習得した知識を自ら実践・確認し，より深く理解するための実験および演習科目も設定されています。4年次には，配属された研究室において課題研究やゼミナールを中心とした密度の濃い専門教育を提供しており，先端的な研究を自ら実施することで，社会の要請に応える専門知識と実践的能力が獲得できる内容になっています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy19.html>）

(概要)

教育内容・特色

理学部は，数学科，物理学科，化学科，生物学科，地球科学科の5学科に加え，臨海実験所，界面科学研究施設の2附属施設から構成されています。理学部では，4年一貫の少人数教育を採用しています。1年次では教養科目を学びつつ各学科で基礎的な専門科目を学びます。2・3年次では研究活動に関連する専門科目を学び，4年次で特定のテーマに沿った課題研究（卒業研究）やセミナーなどを通じて専門知識を究めます。これらの教育を通じて，物事や身の周りのさまざまな事象の本質をつかみ，論理的に思考できる能力を養成し，以下のような人材を育成します。

1. 自然科学の幅広い分野の基礎知識を習得し，広い視野と柔軟な研究能力を身につけ，独創的な研究を推進できる人材
2. 習得した専門分野の知識を活用する能力を持ち，自らが新しい分野に積極的に挑戦できる人材
3. 幅広い教養と英語によるコミュニケーション能力を身につけ，グローバル化が進むこれからの世界で活躍し，広く国際社会に貢献できる人材

求める人材

理学部では，基礎的かつ総合的な学力を重視しつつ，以下のような意欲と能力をもった学生を求めています。

1. 自然科学の基礎を学び，その知識や能力を社会で活かしたいと考える人
2. 自然現象を原理や法則から理解したいと考える人
3. 真理探究への情熱をもっている人

入学後の学修のため，以下の科目の内容を習得していることが望まれます。

【数学：数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B】

【理科：各学科のアドミッションポリシーを参照ください。】

【英語：コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ】

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、医の倫理に徹し、科学的思考法と高度の医学的知識を体得し、社会的信頼を得るに足る臨床医及び医学研究者を養成すること並びに高い臨床能力を持つ医療技術者及び医療技術科学の研究者を養成することを教育目的とし、もって人類の健康と福祉に貢献することを使命とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-med.html ）
<p>（概要）</p> <p>人間性に富む豊かな教養【教養】 医療人として自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かで国際的な教養を身につけている。</p> <p>目的につながる専門性【専門性】 健康・医療に関する専門的学識と時代を担う技術を身につけ、国際社会に貢献できる。</p> <p>効果的に活用できる情報力【情報力】 必要に応じて自ら健康・医療に関する情報を収集・分析し、効果的に活用し、グローバルな情報発信ができる。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】 国際的に活躍できる医療人としてのコミュニケーション能力を有し、医療チームの一員として責任を持った行動ができる。</p> <p>生涯に亘る自己実現力【自己実現力】 自立した世界に通用する医療人として絶えず医療の質の向上に努め、生涯に亘り自己の成長を追求できる。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-med.html ）
<p>（概要）</p> <p>医学部では、本学部ディプロマポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養、目的につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯に亘る自己実現力）を備えた医療人を育成するため、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。</p> <p>1年次には、外国語、リベラル・アーツ、スポーツなどの全学規模で実施される教養教育に加え、専門教育の基本となる知識や技術について学びます。2年次以降、各学科においてより専門性の高い専門科目を履修するとともに医療機関等における実習が始まり、大学教育としてのカリキュラムの成果は、国家試験の受験に十分耐え得るものとなっています。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy20.html ）
<p>（概要）</p> <p>教育内容・特色</p> <p>医学部は、高度な教養、専門性、情報力、行動力および自己実現力を身につけて、未来の医療を担い医学をリードする医療人と医学・保健学研究者を育成します。医学は、人類の健康と福祉に貢献することを使命とします。従って、その育成には、医学に関する知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。わたしたちは「あなたのそばに先進医療」を原点理念とし、その実現に向けて特色ある教育を行っています（詳細は各学科の「教育内容・特色」を参照ください）。</p>

求める人材

医学部では、未来の医療と医学を支える医療人および医学・保健学研究者にふさわしい人として、各学科・専攻で実施される専門教育の学修に必要な基礎学力と語学力、コミュニケーション能力を有し、医療人および医学・保健学研究者としての知的探究心と高い志を持ち、入学時点に相応した倫理観と豊かな人間性を備えた人を求めています。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です（詳細は各学科の「求める人材」を参照ください）。

学部等名 歯学部

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

（概要）

本学部は、広く知識を授け、深く歯学の学識・技能の教授、研究を行い、高い人格を備えた応用能力豊かな有為な人材の育成を図り、もって人類の福祉及び世界文化の進展に寄与することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-den.html>）

（概要）

人間性に富む豊かな教養【教養】

自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた歯科医療人としての豊かな教養を身につけている。

目的につながる専門性【専門性】

医療に対する社会の要請ならびに歯科医学の進歩に主体的に、独創的に対応し、高度な医療福祉の担い手となりうる歯科医師としての専門的知識・技能・態度を身につけている。

効果的に活用できる情報力【情報力】

先端的な歯科医学、歯科医療の発展を担うための問題発見、情報収集・分析・応用能力を身に付けると共に、成果を効果的に発信できる。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

歯科医学と歯科医療技術を基盤に、地域社会から国際的な場に至るまでの幅広い領域で活躍できる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

社会・文化活動等に親しむことを含めて、自立した個人・社会の一員として日々を享受する姿勢を一層高め、生涯に亘って歯科医療、歯科医学を志す者として自己の成長を追求できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-den.html>）

（概要）

歯学部の教育科目は6年一貫の授業プログラムで行われ、卒業後歯科医師の資格を取得するための歯科医師国家試験に合格するだけでなく、岡山大学ディプロマポリシーに掲げる学士力を備えた人材育成のために、以下のカリキュラムポリシーに基づき特色あるカリキュラムを策定しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy21.html>）

<p>(概要)</p> <p>教育内容・特色</p> <p>歯学部は、歯学部の使命は良き歯科医療人を育成し、歯科医学を研究し、発展させることです。社会のニーズの多様化と国際化が急激に進む中で、歯科医療もますます高度化しつつあります。歯学部では「国民への高度な歯科医療の提供」と共に「先端的な歯科医療の研究開発」を重視した人材育成を行っています。</p> <p>歯科医学は幅広い総合的な学問領域です。歯学部では自然科学から人文、社会科学的な分野の教育、研究も行われています。文系・理系に関わらず、さまざまな学生が活躍できる学部です。</p> <p>求める人材</p> <p>文系、理系を問わず、次のような熱意のある人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯学教育を受けるに十分な基礎学力を持っている人 2. 他人を思いやる優しさと高い倫理観を持っている人 3. 何事にも意欲的に取り組むことができる人 4. 生命、健康科学に強い好奇心と探究心を持っている人 5. 歯科医師として国民の健康、福祉・介護、さらには国際医療に貢献したいという明瞭な目的意識を持っている人 <p>入学後の学修のため、高等学校段階までに習得してもらいたいこと。</p> <p>高校では特定の科目に偏ることなく、授業に意欲的に取り組んでください。知識を習得するだけでなく、様々な社会の問題に関心を持ち、そして自分の考えをもって行動する姿勢は、歯学分野において社会に貢献するための基礎となる全人的な能力の育成に必要不可欠なものです。</p>

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、薬学に関する基礎及び応用の科学並びに技術を修得させ、薬学に関連する社会的使命を正しく遂行し得る人材を養成するとともに、薬学に関し深く研究を遂行し、社会の発展に寄与することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-pha.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>人間性・倫理観に富む教養【教養】</p> <p>自然や社会、健康や疾病など多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、医療や創薬に従事する人に相応しい、豊かな人間性や高い倫理観に裏打ちされた教養を身につけている。</p> <p>目的につながる専門性【専門性】</p> <p>医薬品の適正使用や開発研究を推進する実践的能力を発揮するための生命科学、疾病、医療に関する幅広い専門知識と技能を身につけている。</p> <p>情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】</p> <p>医療領域のみならず、自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し、正しく活用できる能力を有すると共に、効果的に情報発信できる。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】</p> <p>医療領域のみならず、社会生活に求められるコミュニケーション能力、グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有し、人との共感的態度を身につけ、地球規模から地域社会に至るまで、時代と社会をリードする行動ができる。</p>

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて、生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受すると共に、薬学や生命科学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-pha.html>）

（概要）

薬学部では、本学部ディプロマポリシーに掲げる学士力（人間性・倫理観に富む教養、目的につながる専門性、情報を的確に収集・活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯に亘る自己実現力）を備えた人材を育成するため、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

1・2年次には、外国語、リベラル・アーツ、スポーツなどの全学規模で開講される教養教育科目に加え、各学科で開講する専門基礎科目やガイダンス科目および専門科目を通じ、専門教育の基本となる知識や技術について学びます。3年次以降、各学科においてより専門性の高い専門教育科目を履修するとともに、それまでの専門教育科目で習得した知識を、自ら実践・確認しより深く理解するために実習科目が設定されています。さらに、卒業研究として各研究分野の最先端の研究テーマに取り組むことにより、それまで学習した理論、技術、知識を実践的問題に応用して、専門知識の修得のみならず課題探求能力、行動力等も身につけさせる教育を行っています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy22.html>）

（概要）

教育内容・特色

薬学とは、以下の各要素からなる、複合的な学問分野です。

- 1) 解析：生命現象、疾病原因の分子基盤を解き明かす。
- 2) 創出：機能を制御できる物質を創出する。
- 3) 活用：開発・発見された物質の活用法を最適化し、さらには新たな活用の方策を創案する。

岡山大学薬学部では、これらの活動を担う人材を育成するために、関連する基礎及び応用の科学並びに技術を修得させ、また自ら新しい知を創生するための、観察力・直観力・分析力・論理力・研究遂行能力・発信力を練磨します。さらに、社会的使命・倫理観を持ってその成果を正しく活用し、国際社会の発展に寄与する人材を育成します。

このため、薬学部では所属学生に対し、解析・創出・活用に共通の教育基盤を与え、薬学科では特にヒトに対する物質の「活用」を担うための専門的知識を身につけた人材（薬剤師）を、創薬科学科では、解析・創出・活用に係わる研究開発を担う人材を育成します。

求める人材

薬学とは、化学をはじめ生物学や物理学などの基礎科学からバイオテクノロジーなどの応用科学までも含んだ生命科学であり、人間の生命・生活にとって有益な「薬」を開発、製造、適正使用するための科学技術の基本となる学問領域です。岡山大学薬学部では、入学後の修学に必要な、①高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を有する人、②専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力が期待できる人、を選抜します。入学後の学修のため、高等学校においては、理科（物理・生物のいずれか及び化学）、外国語（英語）、数学、国語、地理歴史・公民を修得していることを望みます。さらに薬学部では、以下の要素を併せ持つ人を求めます。

1. 優れた倫理観を有する人
2. 目的意識と情熱を持っている人
3. 豊かな人間性を備え、人とのかかわりを積極的に持とうとする人

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、広く工学に関する知識を授け、深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的、創造的及び応用的能力を有する人材を育成することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-eng.html ）
<p>（概要）</p> <p>多面的に考える素養と能力【教養1】 地球の視点から多面的に物事を考える能力とその素養</p> <p>技術者倫理【教養2】 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）</p> <p>論理的基礎知識と応用能力【専門性1】 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力</p> <p>技術的専門知識と問題解決能力【専門性2】 専門分野の技術に関する知識とそれらを活用して問題解決に活用できる能力</p> <p>社会の要求に応えるデザイン能力【情報力】 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力</p> <p>コミュニケーション能力【行動力1】 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力</p> <p>仕事の立案遂行および総括能力【行動力2】 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力</p> <p>自主的、継続的な学習能力【自己実現力】 自主的、継続的に学習できる能力</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-eng.html ）
<p>（概要）</p> <p>工学部では、本学部ディプロマポリシーに掲げる学士力（多面的に考える素養と能力、技術者倫理、論理的基礎知識と応用能力、技術的専門知識と問題解決能力、社会の要求に応えるデザイン能力、コミュニケーション能力、プロジェクトの立案・遂行・総括能力、自主的・継続的な学習能力）を備えた人材を育成するために、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。教養教育科目は、全学部の学生が共通に受ける授業科目として位置付けられており、学問の基礎となる知識や技能を獲得するための科目と人間や社会に対する洞察を深めて幅広い視野から物事を捉え判断する力を養うための科目とを設定しています。また、専門教育科目は、専門基礎科目、学科専門科目、コース専門科目に分けられています。専門基礎科目は、工学部の学生が共通に受ける授業科目、すなわち工学部共通コア科目として位置付けられており、工学の学問・研究に必要な基礎学力を幅広く養うための科目を設定しております。学科専門科目は、学科の専門領域について知識と技術を習得し、専門技術者としての素養を身に付けるための科目を設定しております。コース専門科目は、コースの専門領域についてより深い知識と技術を身に付けるための科目を設定しています。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy23.html ）

<p>(概要)</p> <p>教育内容・特色</p> <p>工学部では、人間、社会、環境等の何れにも配慮し、人類の存続と繁栄に必要な科学技術の発展のために、基礎研究と応用研究に邁進し、先端的研究を志向し、その成果を基に国内外及び地域に貢献するために、学部・博士前期課程・博士後期課程の特長ある教育システムにより高度専門技術者、若手研究者の育成を行います。</p> <p>特に、①専門分野の基本的知識の修得と活用能力、自主的な学習能力、探求能力 ②幅広い視野と柔軟で総合的な判断能力 ③倫理観、社会貢献する態度 ④日本語と外国語の十分なコミュニケーション能力、及び情報活用能力 ⑤豊かな人間性 のある課題探求型人材の育成を目標としています。教養教育科目及び専門教育科目において基礎基本知識、理論展開、実験実習による技術の習得を丹念に行えるカリキュラムの編成を行っています。</p> <p>求める人材</p> <p>工学部では、人間、社会、自然、環境等の何れにも配慮し、人類の存続と繁栄に必要な科学技術の発展に貢献することのできる人材の育成を目指しています。そのために、次のような人が入学することを期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら好奇心を持って勉学および新しいことに取り組む意欲がある人 2. 人間、社会、環境等と科学技術との関連について関心がある人 3. 日本語でのコミュニケーション能力および国際化に必要な英語のスキルを有している人 <p>高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力をもつとともに、工学部における学習に関連する科目(数学、理科、英語)に関する理解力と論理的思考による応用力を備えていることが求められます。</p> <p>その他の高等学校において修得していることが望まれる科目については、各学科アドミッションポリシーの「求める人材」を参照してください。</p>

<p>学部等名 環境理工学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、広く環境理工学に関する知識を授け、深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的、創造的及び応用的能力を有する人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-env.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>環境理工学部は、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会を構築するため、学際的な幅広い知識を身につけ、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造する能力を持つ人材の養成を行っている。</p> <p>この理念に基づく環境理工学部ディプロマポリシーは、学生が本学部を卒業するにあたって以下の学士力を習得したことを保証するものである。</p> <p>人間性と洞察力に富む幅広い教養【教養】</p> <p>人間社会と自然界の調和などの多様な問題に対して関心を持ち、問題解決に向けての論理的思考力・判断力、今までの考え方・手法にとらわれない創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた学際的な教養を身につけている。</p> <p>幅広い知識に支えられた深い専門性【専門性】</p> <p>専門分野の知識・技術などを身につけ、さらに専門の枠を越えた広範な科目を修得し、それによって多面的な観点から環境問題に取り組むことができる。</p> <p>問題解決のための情報収集・発信能力【情報力】</p>

<p>環境問題を広く、そして深く考える視点に立ち、必要に応じて自ら情報を収集・分析し、それを問題解決に活かす能力を有するとともに、効果的に情報発信することができる。</p> <p>コミュニケーション能力とそれを活かした行動力【行動力とコミュニケーション能力】 国際感覚や外国語能力と共に、様々な専門分野との学際的協力が行えるコミュニケーション能力を有し、地球規模から地域社会に至る環境問題などの解決のために的確に行動できる。</p> <p>生涯に亘って学習し向上する能力【生涯学習能力と自己実現力】 自立した個人として日々を享受する姿勢を一層高め、生涯に亘って自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己の成長を追求できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-env.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>環境理工学部は、環境数理学科、環境デザイン工学科、環境管理工学科、環境物質工学科の4学科から構成されています。本学部では、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会を構築するため、学際的な幅広い知識を身につけ、自然と人間が調和した豊かで快適な環境の創造に貢献する人材の養成を目的としています。このため、本学部ディプロマポリシーに掲げた学士力（人間性と洞察力に富む幅広い教養、幅広い知識に支えられた深い専門性、問題解決のための情報収集・発信能力、コミュニケーション能力とそれを活かした行動力、生涯に亘って学習し向上する能力）を修得することができる体系的なカリキュラムを編成しています。</p> <p>環境学の基礎を学ぶために、1・2年次に履修する学部共通の専門基礎科目の中に環境科学系科目を設けています。専門科目では、各学科の専門領域の根幹をなす理論と技術に重点を置き、1年次から年次が進むにしたがい専門性を高め、教育の量と幅を広げています。4年次の卒業研究では、ゼミナールを重要視し、新しい発想を生み出し、発展させるための素養の醸成、得られた成果を効果的に情報発信するための技術の修得を目指します。このように、本学部では、教養教育、外国語教育、基礎科学系および環境科学系専門基礎教育、専門教育を有機的に結び付けた4年一貫の教育プログラムを提供しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy24.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育内容・特色</p> <p>本学部では、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会の構築に貢献することのできる人材を育成しています。このために、1、2年次に履修する学部共通の専門基礎科目の中に環境科学系科目を設け、環境学の基礎を学びます。専門科目では、各学科の専門領域の根幹をなす理論と技術に重点を置き、1年次から年次が進むにしたがい専門性を高め、教育の質と幅を広げています。4年次の卒業研究では、ゼミナールを重要視し、新しい発想を生み出し、発展させるための素養を醸成するとともに、得られた成果を効果的に情報発信するための技術を学びます。これらの学習を通して修得した学際的な幅広い知識にもとづいて、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造する能力の発展・向上を目指します。</p> <p>求める人材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間社会や自然界を取り巻く環境問題に対して強い関心があり、持続可能な社会の構築に貢献したいと考えている人 2. 環境問題解決のために必要な専門知識や技術を修得し、問題解決に主体的に取り組む意欲をもっている人 3. 他者と積極的にコミュニケーションを図ることができ、互いに協力しながら的確に行動できる人 4. 国際水準の英語力を身につけ、グローバルに活躍したいと考えている人

5. 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力をもつとともに、環境理工学部における学習に関連する科目（数学，理科，英語）に関する理解力と論理的思考による応用力を備えている人

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、農学の分野において、総合的な教育研究を行い、多様化する社会の要請に応えるとともに、幅広い基礎学力と応用展開能力を備えた人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/dp-agr.html ）
（概要） 岡山大学農学部のディプロマポリシーは、学生が本学部を卒業するにあたって、以下の学士力を基本的に習得し、知の継承者となることを保証するための目標である。 人間性に富む豊かな教養【教養】 持続的な生物生産、環境保全など人類の生存にかかわる多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。 目的につながる専門性【専門性】 農芸化学、植物科学、動物科学、および環境生態学にかかわる農学の専門的な学識と技術を身につけ、それを適切に応用することができる。 効果的に活用できる情報力【情報力】 農学的な知識と経験を蓄積し、人を含む多様な生物の生存と福祉に有益な活動を自ら発想できると共に、効果的に情報発信できる。 時代と社会をリードする行動力【行動力】 地域社会から国際社会にも通じるコミュニケーション能力を有し、地域、社会、民族、人種、国籍等のあらゆる境界を越えた全人類の生存と福祉に貢献できる。 生涯に亘る自己実現力【自己実現力】 スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて、自立した個人として日々を享受する姿勢を一層高め、自己の成長を追求するとともに、生涯に亘って学習意欲を持ち続け、農業の進歩と農学の発展に寄与できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/cp-agr.html ）
（概要） 農学部では、1学科体制を導入し、教育コースとして農芸化学、応用植物科学、応用動物科学、環境生態学の4コースを設定しています。1年次には、教養教育科目の履修と並行して専門基礎科目を履修し、農学の幅広い基礎知識を習得します。そして、自らの興味・適性を見極めた上で2年次前半から各コースへ分属します。2年次後半から順次、研究ユニットに所属し、専門教育を受けつつ卒業論文研究の準備に入ります。4年次では、実験や調査を通して実践的研究を経験し、卒業論文を完成させます。 このように、幅広い基礎知識の上に、それぞれの専門分野の知識を積み上げることにより、多様化する社会のニーズに柔軟に対応し、幅広い領域で応用力を発揮できる人材を養成できるカリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy25.html ）

(概要)

教育内容・特色

農学部総合農業科学科は、農芸化学コース・応用植物科学コース・応用動物科学コース・環境生態学コースの4コースによって組織されています。

農学部では、学生が幅広い教育科目を通じて適性を判断し、興味を持てる専門のコースおよび研究ユニットを選択することができます。1年次には一般教養科目の履修と並行して、農業科学の概要を把握するための専門基礎科目からなる入門科目を履修します。2年次には各コースに所属して、共通的な専門科目を通じて自分自身の適性を見だし、順次、研究ユニットに所属して特定の専門教育を受けつつ卒業論文研究の準備に入ります。4年次では卒業論文研究を通して実践的研究を経験します。

このカリキュラムにより、農学に関する幅広い基礎知識を修得することができ、その基礎の上にそれぞれの専門分野の知識を積み上げていくことができるのが特色です。したがって多様化する社会的要請に対応でき、また幅広く応用力を発揮できる人材を養成します。

求める人材

1. 高等学校で与えられた教育カリキュラムに興味を持って取り組み、その過程で、積極的な学習姿勢を確立した人
2. 広く農学を学び、その上で専門的な学習をしたいという強い意欲がある人
3. 将来、実社会で、農学はもとより様々な分野で活躍する意欲にあふれた人、または、技術者や研究者として活躍する意欲にあふれた人
4. 高等学校の卒業レベルの幅広い基礎学力と理解力・思考力を有している人

入学後の学修のため、特に数学と理科については、それぞれ以下の科目を複数履修していることが望まれます。

【理科：生物基礎、生物、化学基礎、化学、物理基礎、物理、地学基礎、地学】

【数学：数I、数II、数III、数A、数B】

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html>

③ 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
本部	—	1人					1人
大学院教育学研究科	—	60人	30人	8人	4人		102人
大学院社会文化科学研究科	—	50人	46人	14人	6人	1人	117人
〃 附属文明動態学研究センター	—				1人		1人
大学院自然科学研究科	—	67人	51人	9人	48人	1人	176人
大学院保健学研究科	—	16人	9人	3人	17人	1人	46人
大学院環境生命科学研究科	—	49人	60人	1人	14人	1人	125人
大学院医歯薬学総合研究科	—	83人	69人	21人	133人	2人	308人
〃 附属医療教育センター	—	1人	1人		3人		5人
大学院ヘルスシステム統合科学研究科	—	20人	11人	4人	14人	1人	50人
大学院法務研究科	—	13人	3人		1人		17人
附属臨海実験所	—				2人		2人
資源植物科学研究所	—	7人	12人		11人		30人
〃 附属大麦・野生植物資源研究センター	—	3人	4人		2人		9人
惑星物質研究所	—	7人	5人		8人	1人	21人
異分野基礎科学研究所	—	17人	17人	5人	17人		56人
岡山大学病院	—	21人	21人	51人	173人		266人
保健管理センター	—	2人	2人		3人		7人
環境管理センター	—		1人		1人		2人
情報統括センター	—	1人	2人				3人
グローバル人材育成院	—	8人	13人	2人			23人
地域総合研究センター	—	2人	1人				3人
教師教育開発センター	—	2人	1人	1人			4人
中性子医療研究センター	—	3人	4人				7人
自然生命科学研究支援センター	—	3人	1人		4人	1人	9人
生殖補助医療技術教育研究センター	—		1人		1人		2人
埋蔵文化財調査研究センター	—	1人			4人		5人
全学教育・学生支援機構	—	13人	25人	6人	4人		48人
研究推進機構	—	3人	2人				5人
安全衛生推進機構	—				1人		1人
異分野融合先端研究コア	—		3人		3人		6人
							1458人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長	学長・副学長以外の教員						計
2人	608人						610人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： http://soran.cc.okayama-u.ac.jp/search?m=home&l=ja
c. FD (ファカルティ・デベロップメント) の状況 (任意記載事項)	
<p>本学では、全学 FD 活動の一環として、毎年度「桃太郎フォーラム」を開催しており、教育技術の向上や教育改善をテーマに教員研修を実施している。また、学修者主体の教育と指導の実践を進めるため1年間を通して順序だてて意図的な手法で習得する実践 FD も実施している。さらに、各学部単位でも同様の取組を行っているほか、授業参観 (ピアレビュー) 等を実施し、教員間の意見交換の場を設けている。なお、学生の視点から「学生による授業改善チーム」により、教育全般に関する企画・提案、授業改善や学習環境、カリキュラムなどに関する提言が行われる等、大学と連携している。</p>	

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	175 人	186 人	106.3%	700 人	774 人	110.6%	人	人
教育学部	280 人	286 人	102.1%	1,120 人	1,196 人	106.8%	人	人
法学部	225 人	234 人	104.0%	900 人	991 人	110.1%	人	人
経済学部	245 人	252 人	102.9%	980 人	1,098 人	112.0%	人	人
理学部	140 人	146 人	104.3%	560 人	681 人	121.6%	20 人	21 人
医学部	272 人	273 人	100.4%	1,309 人	1,374 人	105.0%	25 人	5 人
歯学部	48 人	48 人	100.0%	288 人	321 人	111.5%	5 人	5 人
薬学部	80 人	87 人	108.8%	400 人	425 人	106.3%	人	人
工学部	460 人	467 人	101.5%	1,840 人	2,052 人	111.5%	30 人	31 人
環境理工学部	150 人	160 人	106.7%	600 人	669 人	111.5%	人	人
農学部	120 人	128 人	106.7%	480 人	524 人	109.2%	人	人
合計	2,195 人	2,267 人	103.3%	9,177 人	10,105 人	110.1%	80 人	62 人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	177 人 (100%)	27 人 (15.3%)	130 人 (73.4%)	20 人 (11.3%)
教育学部	285 人 (100%)	36 人 (12.6%)	234 人 (82.1%)	15 人 (5.3%)
法学部	209 人 (100%)	21 人 (10.0%)	168 人 (80.4%)	20 人 (9.6%)
法学部 夜間主コース	17 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (76.5%)	4 人 (23.5%)

学部等名	卒業生数	進学先・就職先		
		進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	196人 (100%)	2人 (1.0%)	159人 (81.1%)	35人 (17.9%)
経済学部 夜間主コース	37人 (100%)	5人 (13.5%)	24人 (64.9%)	8人 (21.6%)
理学部	160人 (100%)	93人 (58.1%)	61人 (38.1%)	6人 (3.8%)
医学部 医学科	119人 (100%)	1人 (0.8%)	0人 (0%)	118人 (99.2%)
医学部 保健学科	172人 (100%)	25人 (14.5%)	141人 (82.0%)	6人 (3.5%)
歯学部	44人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	44人 (100%)
薬学部 薬学科	36人 (100%)	1人 (2.8%)	31人 (86.1%)	4人 (11.1%)
薬学部 創薬科学科	40人 (100%)	34人 (85.0%)	3人 (7.5%)	3人 (7.5%)
工学部	495人 (100%)	329人 (66.5%)	157人 (31.7%)	9人 (1.8%)
環境理工学部	146人 (100%)	66人 (45.2%)	79人 (54.1%)	1人 (0.7%)
農学部	120人 (100%)	51人 (42.5%)	63人 (52.5%)	6人 (5.0%)
合計	2,253人 (100%)	691人 (30.7%)	1,263人 (56.0%)	299人 (13.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内			その他
		卒業生数	留年者数	中途退学者数	
文学部	189人 (100%)	155人 (82.0%)	29人 (15.3%)	3人 (1.6%)	2人 (1.1%)
教育学部	293人 (100%)	260人 (88.7%)	24人 (8.2%)	9人 (3.1%)	0人 (0.0%)
法学部	234人 (100%)	198人 (84.6%)	29人 (12.4%)	4人 (1.7%)	3人 (1.3%)
経済学部	260人 (100%)	209人 (80.4%)	39人 (15.0%)	12人 (4.6%)	0人 (0.0%)
理学部	152人 (100%)	123人 (80.9%)	21人 (13.8%)	7人 (4.6%)	1人 (0.7%)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
医学部	278人 (100%)	262人 (94.2%)	14人 (5.0%)	2人 (0.7%)	0人 (0.0%)
歯学部	48人 (100%)	35人 (72.9%)	9人 (18.8%)	3人 (6.3%)	1人 (2.1%)
薬学部	82人 (100%)	72人 (87.8%)	6人 (7.3%)	4人 (4.9%)	0人 (0.0%)
工学部	477人 (100%)	415人 (87.0%)	44人 (9.2%)	16人 (3.4%)	2人 (0.4%)
環境理工学部	160人 (100%)	138人 (86.3%)	18人 (11.3%)	1人 (0.6%)	3人 (1.9%)
農学部	123人 (100%)	114人 (92.7%)	8人 (6.5%)	1人 (0.8%)	0人 (0.0%)
合計	2,296人 (100%)	1981人 (86.3%)	241人 (10.5%)	62人 (2.7%)	12人 (0.5%)

(備考) ・四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある (小数点第 2 位を四捨五入)

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスについては、「岡山大学シラバス作成ガイドライン」において、シラバスのフォーマットは全学で統一としたうえで、授業内容、到達目標、教科書、成績評価の方法などの基本項目を定めている。また、フォーマットの詳細は定期的に見直すこととしている。</p> <p>各授業担当教員は、岡山大学シラバス作成ガイドラインに基づき作成された、全学統一シラバスフォーマットに、「シラバス作成上の留意事項」「シラバス入力の手引き」等に従い、シラバスを作成する。</p> <p>全授業科目において学生の履修登録開始前の3月末までに日本語版、英語版シラバスを作成し、HPにて公開しており、学外からも閲覧可能としている。</p>
--

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>成績評価は、授業の形態（講義、実験、実習、演習、実技等）に対応し、期末テストのみに偏重することのないよう、出席、学習態度、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。卒業の認定に当たっては、定められた卒業要件を満たすことがディプロマポリシーで示す学生が身につけているべき能力を満たすこととなり、学生の修得単位数等を踏まえ、学部長の申し出により学長が卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	人文学科	124 単位	①・無	年間 60 単位

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育 教員養成課程	124 単位 (幼児教育コースのみ:126 単 位)	有・無	2 学期間 30 単位 ○1・2 学期又は 3・4 学期 ○グローバル人材育成特別コース履 修学生は 8 単位まで追加 履修可能 ○夏期集中講義は 2 学期に、冬・春 季集中講義は 4 学期に算入する ○複数学期に開講する授業科目 の単位数は、当該科目の単位 数を開講される学期数で除し た数をそれぞれの学期に算入する
	養護教諭 養成課程	124 単位	有・無	
法学部	法学科 (昼間コース)	124 単位	有・無	年間 44 単位 ○当該年度の履修修得単位数 (卒業単位資格)が 38 単位以 上で、修得した科目(卒業資格単位 となる科目)の平均点が 80 点以上 の場合は、次年度の履修登録単位 数の上限を年間 50 単位(法曹プロ グラム履修者は 55 単位)とする。 ただし修得単位の評価に認定及び 修了がある場合は、当該単位を平 均点の算出の対象から除く ○グローバル人材育成特別コース履 修学生は登録単位数を超えて履修 可能
	法学科 (夜間主コース)	124 単位	有・無	規定なし ○履修単位数の上限は設けない が、年間 44 単位を越えない 範囲にして、各科目の予習・ 復習を行うことが望ましい
経済学部	経済学科 (昼間コース)	124 単位	有・無	年間 44 単位 ○4 年次の履修単位数上限はなし ○卒業要件単位数に算入しない 「教育職員免許状の取得に係 る教職に関する科目」、「職 業指導に関する科目」、「副 専攻コース」、「集中講義科 目」、「選定図書レポート」につ いては履修上限に含まない ○「グローバル人材育成特別コ ース」の科目については履修 上限に含まない ○本学の交流協定等に基づく 3 ヶ月 以上の留学後は、3 年次まで履修 単位の上限を 60 単位とする
	経済学科 (夜間主コース)	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○昼間に開講される授業科目は 年間 20 単位(集中講義科目を 含まない)までとする ○卒業要件単位数に算入しない 「教育職員免許状の取得に係 る教職に関する科目」、「職 業指導に関する科目」、「副 専攻コース」については履修 上限に含まない ○「グローバル人材育成特別コ ース」の科目については履修 上限に含まない ○海外活動を成績評価に含む科 目については、履修上限に含 まない
理学部	数学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「補習授業(初等数学、初等物理 学、初等化学、初等生物 学)」「基礎英語」及び「その他 別途通知する科目」については履 修上限に含まない ○入学前の既修得単位を本学部 において修得した科目につい ては履修上限に含まない ○外部検定試験等により単位認 定された科目については履修 上限に含まない
	物理学科	124 単位	有・無	
	化学科	124 単位	有・無	
	生物学科	124 単位	有・無	
	地球科学科	124 単位	有・無	

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医学部	医学科	201 単位 (地域枠:202.9 単位)	有・無	年間 50 単位
	保健学科	看護学専攻:124 単位 放射線技術科学専攻:125 単位 検査技術科学専攻:130 単位	有・無	年間 60 単位 ○「グローバル人材育成特別コース」、「生殖補助医療キャリア養成特別コース」については履修上限を定めない
歯学部	歯学科	203.45 単位	有・無	年間 50 単位
薬学部	薬学科	189 単位	有・無	年間 60 単位 ○教養教育科目は年間 30 単位 ○「グローバル人材育成特別コース」については履修登録上限を設けない 外部検定試験等により認定された単位数は、これに含まない
	創薬科学科	127 単位	有・無	
工学部	機械システム系学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「特別研究」、「グローバル人材育成特別コース」、「卒業要件外として扱われる教員免許取得に必要な科目」、「自然科学の補習授業」の科目については履修上限に含まない ○前年度の成績が優秀な学生はその年度に限り上限単位を越えての履修が可能(平均点が 80 点以上の者は年間 4 単位まで増加可能/平均点が 75 点以上 80 点未満の者は年間 2 単位まで増加可能)
	電気通信系学科	124 単位	有・無	
	情報系学科	124 単位	有・無	
	化学生命系学科	124 単位	有・無	
環境理工学部	環境数理学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○この 60 単位には「教育職員免許状の取得に係る科目」、「グローバル人材育成特別コース」、「その他の卒業要件外科目の単位」、「取得できなかった単位」も含まれる
	環境デザイン工学科	124.5 単位	有・無	
	環境管理工学科	124 単位	有・無	
	環境物質工学科	124 単位	有・無	
農学部	総合農業科学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「グローバル人材育成特別コース」、「教育職員免許状の取得に係る科目」、「副専攻コース」の科目履修者については年間(合計)70 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html>

※ 岡山大学の教育情報→ 1. 教育研究活動の状況についての公表→ (7) 校地、校舎等の施設/学生の教育研究環境(設備等)

⑧授業料，入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 環境理工学部 農学部		535,800 円	282,000 円	0 円	
法学部 夜間主コース 経済学部 夜間主コース		267,900 円	141,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 高大接続・学生支援センター学生相談室の専任教員やカウンセラー，各学部の相談協力委員（教員）が，学生の大学生活における様々な悩み（修学関係，日常生活，性格，対人関係，進路，適性等）の相談に応じており，保護者からの相談も受け付けている。また，学生を対象としたキャンパスライフセミナーを開催している。 同センター障がい学生支援室の専任教員が，障がいのある学生や保護者からの相談に応じ，各学部・研究科等とも連携して障がいのある学生に必要なサービスを提供している。また，支援技術の啓発活動やボランティア学生の養成等も行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 高大接続・学生支援センターの専任教員による全学ガイダンス等の授業（正課）及び正課外活動支援によるキャリア教育を実施，また，キャリア・学生支援室の専任教員及びキャリア・アドバイザーによる就職活動やキャリア構築に向けた個別相談の実施，就職ガイダンスや就職支援行事，国家公務員セミナー等の開催等，キャリア教育と就職支援の両輪で学生をサポートしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健管理センターにおいて，健康診断，専門の医師・カウンセラーによる心身の健康相談，健康教育，応急処置等，学生の身体と心の健康をサポートし，病気の予防や健康の増進を図っている。 また，必要に応じて高大接続・学生支援センター学生相談室及び障がい学生支援室等と連携を取りながら学生をサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html
